

## 大阪港

# 3年連続200万TEU超へ

コンテナ取扱量

輸出入とも好調

**【関西】** 大阪港のコンテナ取り扱いが堅調だ。同港は2017、18年と2年連続で年間取扱量が輸出入合計で200万TEUを上回り復調傾向にあるが、19年は1~9月累計で前年同期を上回るベースで推移している。米中間の貿易を巡るあつれきが長期化するなど、向かい風にある輸出もプラス基調を維持しており、3年連続の200万TEU超えも視界に入る。

**【大阪市港湾局のまとめ】** 大阪市港湾局のまとめでは、1~9月累計のコンテナ取扱量は輸出入合計で前年同期比4%増の158万6000TEU。U。メインの輸入が2%増の86万9000TEUと堅調に推移、輸出は空コンテナ扱いが増え5%増の71万7000TEUとなつた。実入りに限れば、同時に輸出入合計は1%増

の114万6000TEUだった。輸出は1%減の30万5000TEUにとどまつたが、輸入が2%増の84万1000TEUとなり、停滯気味の輸出を補つた。

19年に入つてからの同港を取り巻く環境は芳しくなかつた。5月の10連休に加え、6月下旬には南港で20カ国・地域首脳会議(G20大阪サミット)があった。サミットの30万5000TEUにとどまつたが、輸入が2%増の84万1000TEUとなり、停滯気味の輸出を補つた。

また、米中間の貿易を巡るあつれきの長期化の余波で、大阪からの輸出貨物となる中国や韓国向けの素材や機械類の荷動き

とうか月連続で前年同月割れとなつた。

それでもサミット明け

の7月以降、実入り貨物の輸入が回復し3カ月連続増となつたほか、実入り輸出も9月は2割近く増え6カ月ぶりにプラスに転じた。ただし昨年9月は台風21号が関西を直撃しており、その反動も

増え6カ月ぶりにプラスに転じた。ただし昨年9月は台風21号が関西を直

撃しておらず、その反動も

増え6カ月ぶりにプラスに転じた。ただし昨年9月は台風21号が関西を直

撃しており、その反動もある。

大阪港のコンテナ取扱量は13年に過去最高の219万3000TEUを記録したが、15年、16年は減少傾向にあつた。